

VIII 地場産木材の活用

建物名 大樹町寿町団地
 立地 大樹町
 建物用途 公営住宅
 延床面積 288 m² (4戸)×2棟

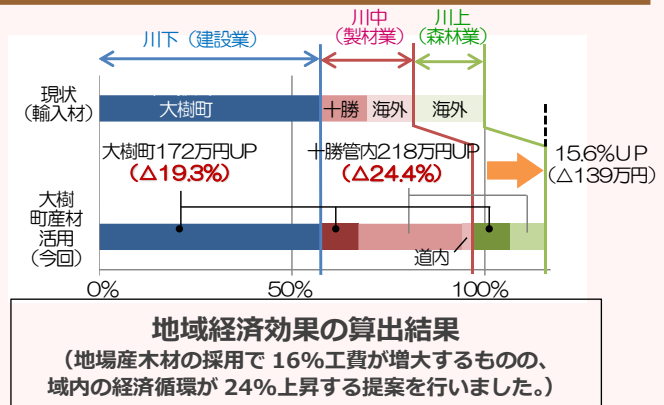
建物階数 平屋
 建物高さ 3.7m
 構造 木造



ねらい

建築分野における地場産木材の活用により、地域経済の活性化や循環型社会の形成等の効果が期待されます。しかし、公共建築物における地場産木材の活用には、流通やコスト上の課題が多いのが実情です。

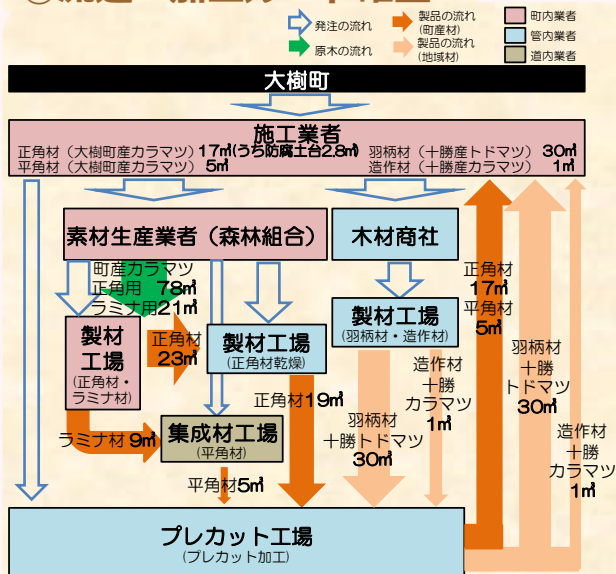
ここでは、大樹町に建設される公営住宅を対象にした、地場産木材の活用により地域経済効果を向上させた（イメージを右図）設計支援の事例を紹介します。



Point 流通・加工ルート確立、梁材寸法の種類の集約化

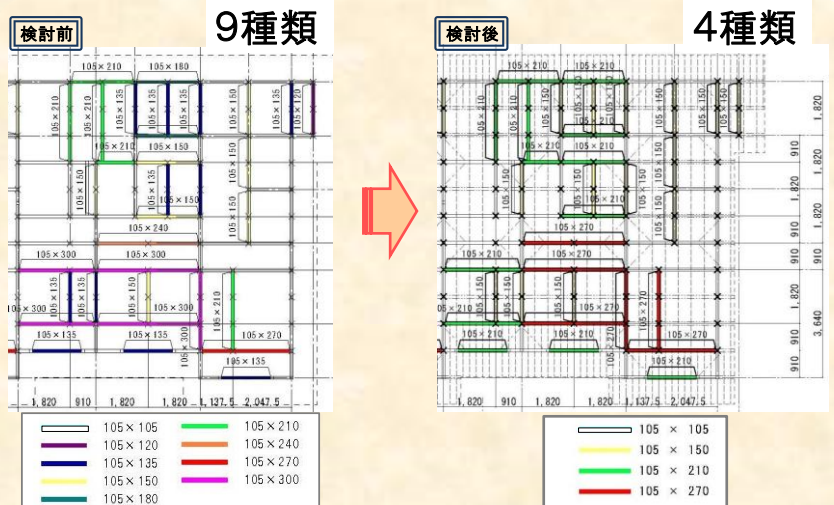
森林資源や製材の生産体制等は市町村によって異なります。そうした現状を踏まえ、可能な限り市町村内、振興局管内もしくは道内の森林資源、生産体制等を活用した流通・加工ルートを確認し、工事費と地域経済効果のバランスの取れた設計を検討する必要があります。

① 流通・加工ルート確立



大樹町の公営住宅では、地域経済効果の高い流通・加工ルートとして、町有林を活用し、町内の小規模な製材工場、十勝管内の乾燥・プレカット工場、道内の集成材工場等の活用を提案しました。

② 梁材寸法の種類の集約化



梁材寸法の種類が多いことで、小ロットとなり製材工場の在庫負担が大きく、生産や流通の効率が低下します。そこで設計を合理化し、梁材の断面寸法の種類が少なくする提案を行いました。



心持ち正角材による径が細い原木の活用